

5年生実践から見る 指導と評価

1. 単元名 「米づくりのさかんな地域」～南魚沼の米づくりからこれからの農業を考える～

2. 学校教育目標と社会科で目指す子どもの姿

(省略)

3. 単元目標

国民の主食である米や稲作に関心をもち、稲作が国民の食生活を支えていることや従事している人が地形や気候などの自然環境を生かし、生産を高める工夫や努力をしていることについて調べ、稲作が自然環境と深い関わりをもって営まれていることを理解し、これからの稲作の発展や食生活との関わりについて考えるようにする。

4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①米の生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などについて地図帳や地球儀、各種の資料などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、米づくりに関わる人々の工夫や努力を理解している。	①米の生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、問いを見出し、米づくりに関わる人々の工夫や努力について考え、表現している。	①我が国の稲作における食料生産について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、米づくりに関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な米を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解している。	②米づくりに関わる仕事の工夫や努力とその土地の自然条件や需要を関連付けて、米づくりに関わる人々の働きを考えたり、学習したことを基に、消費者や生産者の立場などからこれからの農業の発展について、多角的に考えたりして表現している。	②学習したことを基に消費者や生産者の立場などからこれからの農業の発展について、多角的に考えようとしている。

5. 目指す子どもの姿に迫るための授業改善の5つの視点

(1) 教材化 ～米農家のAさんの取り組みから～

米は日本の主食として多くの子どもが食べたことのある食材です。しかし昨今、米の消費量は減少し、生産者も高齢化が進んでいます。これからの農業について考えるにはAさんのように「おいしい米を届けたい」「米に関心をもってほしい」という熱意に触れることが大切であると考えました。農家のAさんは、南魚沼市で米づくりをしています。生産から米粉を利用した食品の販売まで行うことで、よりおいしい米を、より多くの人に届けようとしています。Aさんが、稲作の今後の発展を考えてお店まで経営されている思いを子どもにも知ってほしいと考えました。生産する人の姿が見えるようになり、その思いに触れることで我が国における稲作に関心をもち、これからの農業の発展を考えるきっかけにしたいと考えました。

(2) 学習過程 ～米農家のAさんのお店からこれからの日本の稲作を考える～

本単元の1時間目に、「米はどこで、どのように作られ、私たちのもとに届くのだろうか。」について学習問題をつくり、その予想をもとにして学習計画を立てました。

子どもたちの思考がスムーズに流れるように、米づくりの概要から、米農家のAさんの取り組みについて学習することとしました。大きな視点からAさんの取り組みへと焦点化することで、それぞれの米農家が消費者に美味しい米を届けようと日々工夫や努力していることを知ることができると考えました。

(3) 学習活動 ～事例をもとに考える～

これからの稲作の発展を考えるきっかけとして、米農家のAさんの経営する店舗を取り上げました。米を生産するために多くの工夫や努力をしていることを理解することで子どもに「なぜさらに大変なことをしているのか」という疑問をもたせ、話し合わせることで、Aさんの思いについて考えられるようにしました。日本の稲作における課題やAさんの工夫や努力など、既習をもとに考えることができる活動を取り入れるようにしました。

(4) 指導と評価 ～評価を生かした指導～

まとめを書く時間を十分に確保し、書き方の例示やキーワードの提示をすることで、文章を書くことが難しい子どもにも自分の考えを表現することができるようにしました。また、学習活動の中において各時間のねらいを明確にすることで、それに迫れるように指導方法を工夫しました。子どもたちが書いたまとめや振り返りから、学習問題の妥当性や学習過程が効果的だったかを教師自身も振り返り、次時以降の学習へと生かすようにしました。

(5) 一人一人が生きる社会科学習 ～自分の考えを深め、一人ひとりが表現する～

資料を根拠に一人一人が自分の考えをもつことを大切にしました。その中で、自分の考えをもつことが難しい子どもには、意見を聞き、自分の考えをもつことができるようにする声かけをしたり、学習の足跡を掲示して考えたりすることができるように支援しました。自分たちの暮らしに関わる人々の様々な役割を理解し、学んだことを他人事とせず、自分のこととして考え、他者との相互理解や社会性の向上に努めていけるように指導しました。

6. 単元構想図

①②学習問題を立てる

一人当たりの米の年間消費量 米飯給食の回数 田と給食の写真

沢山食べているね。どこから来ているのかな？ どうやって稲からご飯になるのだろう？

単元を見通す学習問題 米はどこで、どのように作られ、私たちのもとに届くのだろうか。

どこで	どのように
<p>③お米はどこで作られているのだろうか。(知—①)</p> <p>南魚沼市の雨温図</p> <p>都道府県別米生産量グラフ</p>	<p>⑤Aさんは、どのようにお米をついているのだろうか。(知—①)</p> <p>米づくりカレンダー</p> <p>Aさんの話</p>
<p>④なぜ南魚沼市のお米は人気があるのだろうか。(思—①)</p> <p>南魚沼市の写真</p> <p>米づくりの条件</p> <p>条件が揃っていて、栄養がある雪解け水もあるから美味しいお米が作れるんだね！</p>	<p>⑥Aさんはどうやって沢山の田を4人で育てているのだろうか。(知—①)</p> <p>機械化</p> <p>⑦Aさんは、なぜ黒酢を使って米づくりをしているのだろうか。(思—①)</p> <p>黒酢・水の管理</p> <p>⑧Aさんは、どうやって4種類もの品種を育てているのだろうか。(知—①)</p> <p>PC管理</p> <p>品種改良</p> <p>Aさんをはじめ多くの米農家の方は良質なお米をつくるために沢山の努力・工夫をして育てているんだね！</p>
	<p>どう届く</p> <p>⑨生産されたお米はどのように私たちのもとに届くのだろうか。(知—①)</p> <p>JA・直接販売</p> <p>安全で美味しく食べてもらうために、多くの人が工夫して関わっているね！</p>

⑩まとめ

自然条件を生かして、東北地方や新潟県、北海道で盛んに行われており、一年中作業を行っておいしいお米をつくっている。また、安心安全なお米のために多くの工夫している。稲作に、関わっている人々が多くの努力をしてわたしたちはおいしいお米を食べることができているね。

深める⑪～⑬

⑪日本の農家の人々は、どのような問題を抱えているのだろうか。(知—①)

米の生産量と消費量の変化 農業で働く人の数の変化

このままでは美味しいお米が食べられなくなってしまうかもしれない。何か策を考えたいな。

Aさんのお店の様子 ⑫Aさんは、大変な努力を重ねているのに、なぜお店をやっているのだろうか。
⑬これからの米づくりを未来につなぐために、何が出来るか考えよう。(思—②)(態—②)

Aさんの話

これからの農業を思っているんだ。

様々な工夫をして努力をしながら米づくりをしているすごい人が沢山いる。その中で、日本の農業の課題に対して、未来のためにさらに努力をしていた。自分達もお米づくりのことに興味をもったり、食べたいして日本の稲作を未来へつなげていきたい。

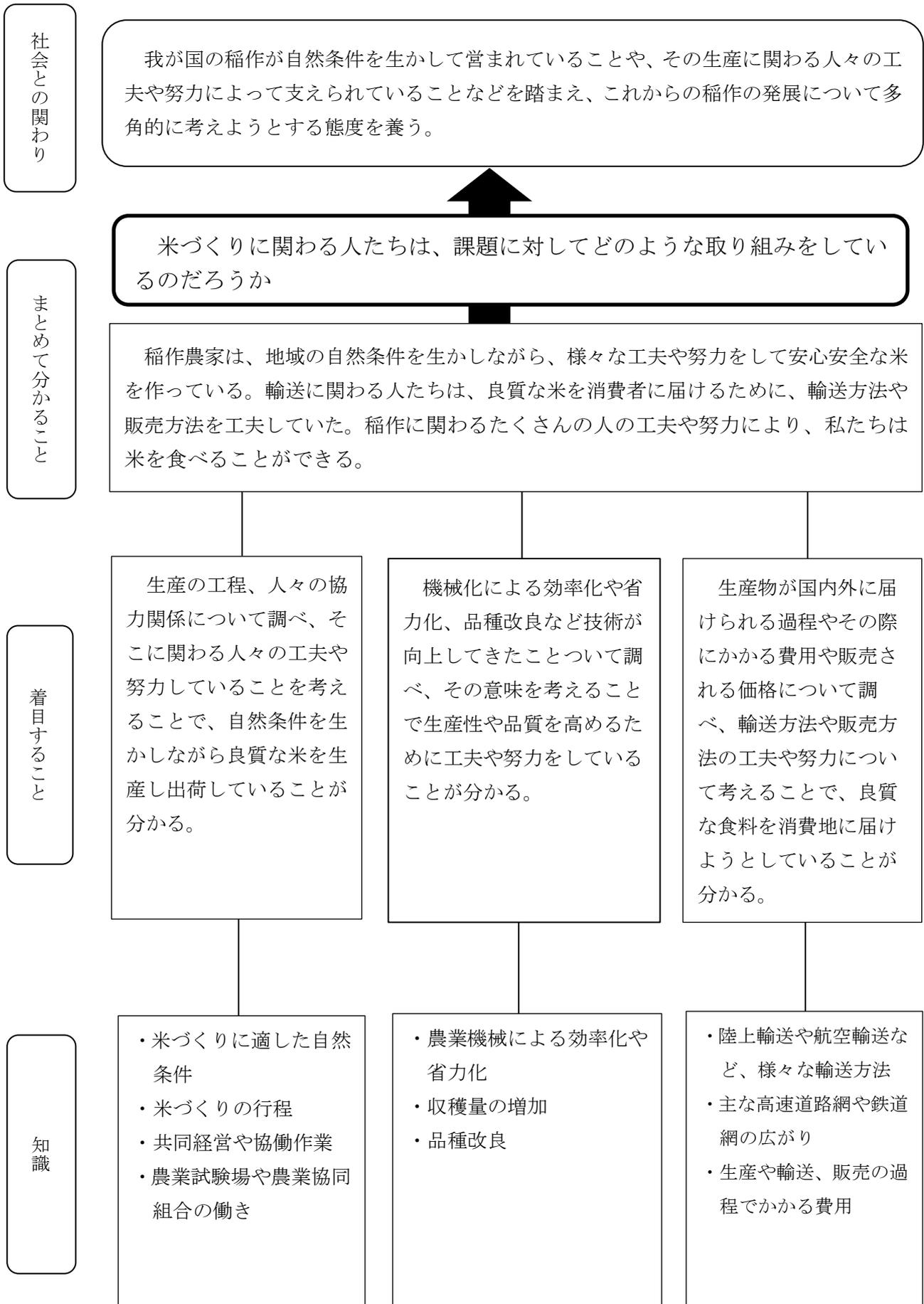
7. 資質・能力の育成に向けた学習評価計画（12時間）

※□は評価したことを記録に残す場面

○本時のねらい	○主な学習活動	◇主な資料	評価方法【評価規準】
① 自分たちがいつも食べている米はどこで作られているのかについて疑問をもち、問いを見出すことができるようにする。	○普段食べている米がどこで作られ、手元に届くのか予想する。	◇一人あたりの米の年間消費量と同じ重量の米 ◇米を育てるために必要な水の量 ◇田と米の写真	発言内容や話し合いの様子から「自分たちがいつも食べている米の産地や生産方法などについて問いを見出しているか」を評価する。 【思—①】
② 前時で見出した問いをもとに、単元を見通す学習問題を立て、学習計画を考えることができるようにする。	○前時の活動を元に、単元を見通す学習問題を立てる。 ○単元を見通す学習問題から学習計画を考える。	◇前時の板書・資料	発言内容や話し合いの様子から、「我が国の農業について学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。 【態—①】
③ 米の生産地の広がりについて理解することができるようにする。	○米の産地調べを通して、日本のどこで米づくりが盛んに行われているのかを調べる。	◇南魚沼市の雨温図 ◇都道府県別の米の生産量	発言内容やノートの記述内容から、「資料から必要な情報を集め、読み取り、米づくりの盛んな地域の分布を理解しているか」を評価する。【知—①】
④ 米はそれぞれの土地や気候を生かして生産されていることを考え、表現することができるようにする。	○米が多く生産されている地域から米作りに適した自然条件を読み取り、土地や気候を生かして生産されていることを考え、表現する	◇南魚沼市の航空写真 ◇美味しい米が作れる条件	発言内容やノートの記述から、「米は自然条件を生かして生産されていることを考え、表現しているか」を評価する。 【思—①】
⑤ 資料を読み取り、米の生産工程について理解することができるようにする。	○資料から米作りの年間の流れを読み取り、米づくりカレンダーを作成する。	◇米づくりカレンダー ◇Aさんの話	発言内容やノートの記述内容から「資料から必要な情報を集め、コメの生産工程について理解しているか」を評価する。 【知—①】
⑥ 多くの田を管理するために機械を活用し、生産性を高める工夫や努力をしていることを理解することができる。	○多くの田で、たくさんのお米を育てるために機械を活用していることを資料から読み取る。 (GIGA)	◇Aさんの話 ◇機械の写真	発言内容やノートの記述内容から、「多くの田を管理するために機械を活用し、生産性を高めていることを理解しているか」を評価する 【知—①】

⑦ 安全な米を消費者に届けるために工夫して稲作を行っていることについて考え、表現できるようにする。	○A さんの話からなぜ黒酢を使用して米を育てているのかを考える。	◇A さんの話	発言内容や話し合いの様子、ノートの記述内容から、「安全な米を消費者に届けるための工夫について考え、表現しているか」を評価する。【思一①】
⑧ 品種改良によって安定して米の生産ができるようになったことを理解することができるようにする。	○米の特徴について資料から読み取り、4種類の品種を育てている理由を調べる。	◇A さんの話 ◇米の特徴 ◇品種改良の話	発言内容やノートの記述内容から、「品種改良によって安定して米の生産ができるようになったことを理解しているか」を評価する。 【知一①】
⑨ 生産された米が自分たちの手元にどのようにして届くのかを調べ、理解することができるようにする。	○収穫された米がどのように運ばれているのかを調べる。	◇J A を通した販路の資料 ◇農家と消費者の直接販売の資料	発言内容やノートの記述内容から、「収穫された米が様々な人の工夫のもと、自分たちの手元に運ばれていること理解しているか」を評価する。 【知一①】
⑩ これまでの学習をまとめ、米がどこで、どのように作られ、私たちのもとに届いているのかを理解することができるようにする。	○前時までの学習や資料をもとに、「米はどこで、どのように作られ、私たちのもとに届くのか」をまとめる。	◇米の旅（前時までの学びの足跡）	ノートの記述内容から、「調べたことをまとめ、米がどこで、どのように作られ、私たちのもとに届いているのかを理解しているか」を評価する。 【知一②】
⑪ 日本の農家の人々がどのような問題を抱えているのかを、理解することができるようにする。	○現在の日本の農業の課題について調べる。	◇米の生産量と消費量の変化 ◇農業で働く人の数の変化	発言内容やノートの記述から、「日本の農家の人々がどのような問題を抱えているのかを理解しているか」を評価する。 【知一①】
⑫⑬日本の農家の人々がどのような問題を抱えているのか見出し、これからの農業の発展について考えようとする態度を養うようにする。	○資料から現在の農業がかかえる課題を見出す。 (GIGA) ○これまでの学習をもとに、農業が抱えている問題への取り組みを多角的に考える。	◇A さんのお店の話 ◇米の旅（前時までの学習の足跡）	発言内容やノートの記述から、「学習したことをもとにこれからの農業の発展について考えようとしているか」を評価する。 【態一②】 発言内容や話し合いの様子、ノートの記述をもとに「生産者の取り組みについて調べ、生産者や消費者の立場からこれからの農業について多角的に考えているか」を評価する。 【思一②】

8. 資料「社会のしくみ」と「社会との関わり」をつなぐ理解の構想図



ともに生きる未来を創造し、よりよい社会の在り方を問い続ける社会科学習

5年生で目指す子どもの姿

- 主体的に問題解決に向かうことができる子
- 日常を支える社会のしくみがわかり、これからの社会の在り方を考えられる子

◆研究の重点①

人の営みから社会のしくみを理解し、これからの農業の在り方を考えるための教材化

南魚沼の稲作農家であるAさんは、消費者によりおいしく、安心・安全な米を消費者に届けるために様々な工夫をしています。よりよい米をつくるこだわりに着目することで、米に込められた生産者のプライド（誇り）やブランド（価値）に気付けるようにしました。また「農家さんが当たり前に行っていること」といったMさんの言葉から、Aさんだけのこだわりでなく日本の稲作農家の工夫や努力として捉えられるように教材化しました。

Mさんの米づくりの工夫や努力

よりよい米をつくるこだわりに着目することで…

米づくりの工程

黒酢を使った米づくり

4種類の品種を育てる

南魚沼の米づくりを通して、稲作にかかわる人たち（Aさん）のプライド（誇り）やブランド（価値）に気付かせていきたい。

◆研究の重点②

単元で育てたい資質・能力を意識した学習過程

稲作にかかわる人々の工夫や努力によって食料生産が支えられていることがわかるように、どの時間に何を学ぶのか単元における資質・能力を明確にして構想を立てました。単元の後半では、これからの農業の発展について多角的に考える時間を設定しました。学習したことを基に日本の農業が抱える課題を捉え、その課題と向き合おうとしている人たちの存在を知ることによって、これからの農業の在り方について切実感をもって考えられるようにしました。

